

不思議な力

奥村 太



日本は現在、深刻な少子高齢化社会が進行していると言われています。確かに、私の職場(海上保安庁)でも業務上のニーズに加え、所謂団塊の世代が引退した後の人材確保の必要性が大きな課題となっており、これまで60歳であった定年も段階的に引き上げられ

最終的には65歳となる事が数年前に決定しました。科学技術が飛躍的に進歩している現代においても人口は国の力を支える最も基本的な要素であるにも関わらずなかなか効果的な解決策を見出せずにいる現状は非常に由々しき事態であると感じずにはられません。

と、少し重たい導入となってしまう

が、今回は別に少子化問題をテーマにしようと考えているわけではありません。実は幸運にも今年の5月に我が家に待望の第一子(名前は「忠久(ただひさ)」と言います)が生まれました。この忠久の誕生までには実に多くの方々からのサポートや励ましを頂いたわけではありますが、その中でも鎌倉時代から綿と続く入来院家の持つ底知れぬパワーについては感じずにはいられないエピソードが多くありましたので、この機会に思い出話のような形で書いてみたいと思います。

《エピソード1 おじいちゃんの予言①》

私と妻が結婚したのは今から約2年前の2022年3月のことでした。お互い、アラフォーでの結婚だったこともあり、私自身は子供については妻の気持ちを最大限に尊重したいと思っていました。結婚後すぐに転勤となり鹿児島での勤務が始まったわけですが、

私も妻も（愛犬ヤマトも）すぐに鹿児島県の生
活環境が気に入って、1年目については鹿児島
県内の様々なところを巡り充実した日々を送
っていました。やはり生活環境の安定度合い
は家庭に与える影響も大きいのか、桜島の力
強さに背中を押されるように、2023年の
年が明けた頃からどちらからということもな
く「やっぱり子供欲しいよね〜」という会話
が始まりました。

その後、お互いの年齢的なこともあったた
め二人で相談しながら食事やタイミングとい
った妊娠に取り組んでいた2023年の7月、
私が示現流で大変お世話になっている有村様
からご紹介を頂き、入来院家の重朝おじい
ちゃんと久子さんにお会いすることができまし
た。重朝おじいちゃんも久さんも、初対面
の時からそれはそれは親切にして下さり私達
夫婦が妊娠中であることを話した時もとて

親身に相談に乗って下さいました。その中で、
重朝おじいちゃんから「大丈夫、この家（入
来院家）に来られたのだから、必ず子供はす
ぐにできる」と太鼓判を押して頂いたのです。
やはり鎌倉時代から幾多の時代の変化を乗り
越えて現代まで続いている入来院家の現当主
直々の言葉は私達夫婦をとて前向きな気持
ちにさせてくれました。

普通であれば「この後も妊娠を頑張りまし
た・・・」となるところなのですが、入来院
家にお邪魔になった直後の妻の検診において、
なんと無事に妊娠していることが判明したの
です。妻が妊娠したことは真っ先に重朝おじ
いちゃんと久さんにご報告させて頂きまし
たが、私達夫婦はこの時から入来院家の持つ
パワー存在を俄かに信じ始めていました。

《エピソード2 〜おじいちゃんの予言②〜》

妻が無事に妊娠して以降も、私達夫婦は

重朝おじいちゃんと久子さんのご厚意に甘えて月1回程度の頻度で遊びに行かせて頂いていました。

久子さんは妻の体調を非常に気遣って下さり、妻の些細な体調の変化や気分がすぐれない時の過ごし方など、ご自身のご経験も交えながらお話しください、初めての妊娠で色々と不安や悩みを抱えていた私達夫婦にとつては有難い以外の何ものでもありませんでした。

幸運にも妊娠初期において妻の体調はそこまで悪くはなく、入来小学校のお堀の清掃（鯉のつかみ取り等）のお手伝いをさせて頂いたりと入来麓での束の間の時間を満喫するとともに、久子さんの美味しい手料理もたくさん頂くことで、妻の経過も大きなトラブルもなく順調なものでした。

そのような中で、重朝おじいちゃんの二回

目の予言が発動しました。その頃、妻の週数はまだ初期段階でありお腹の子供の性別は当然分かっていなかったもので、重朝おじいちゃんから男の子なのか女の子なのか問われた時も「まだ分かりません」としか答えられなかったのですが、それを聞くなり「男だよ。間違いない。」とのお言葉（予言？）を頂きました。既に妊娠に関する予言の的中を目の当たりにしていた私達夫婦は、この性別に関することも十分にあり得ると信じ始めており、次の検診時において性別が分かるのが楽しみになってきました。

ここまで話をすればもう予想はつくと思いますが、その通り、次の検診時に病院の先生から「男の子だと思いますよ」とのお話を頂きました。これで妊娠に引き続き性別までも的中したことになり、私と妻は入来院家には間違いなく底知れぬパワーがあると信じる

に至りました。

このエピソードにはちよつとしたオチがありません。子供の性別が分かった後に重朝おじいちゃんと久子さんにご報告にあがった際、重朝おじいちゃんからは「男の子とか、良かったな。でも、今は何でも事前に分かってしまうんだな。神秘性が無いのは残念だな。」とのお言葉を頂きましたが、私達夫婦からすると、既に妊娠と性別に関する重朝おじいちゃんの予言が的中するのを目の当たりにして十分に「神秘性」を感じさせて頂いていました。

《エピソード3 久子さん》

主なエピソードとしてはこれが最後になります。2024年の年が明け、残念ながら私の仕事の都合で4月に鹿児島から大阪へ転勤することが決まってしまいました。この頃は、妻は既に妊娠7ヶ月目に入っており、大

分お腹も大きくなっており日に日に妻にかかる身体的負担も大きくなっていることが、私の私にも分かるようになってきました。

妻がこの様な時期での転勤であったことから、私達夫婦のもっぱらの懸念事項は、無事に転勤(妻が移動)できるかということと、転勤先で無事に出産できるのかということでした。

引越しの準備等もあることから、鹿児島在住中に入来院家へお邪魔するのは2月が最後となり、この時にこれまでの数々のご親切に對するお礼と転勤のご報告を重朝おじいちゃんと久子さんにさせて頂きました。初めてお会いしてからというものの、ほぼ毎月のようにご厄介になっており、誠に勝手ながら実家に帰るような気持ちでお邪魔させて頂いていた中での転勤だったので、一旦このような形で気軽に会いに来ることができなくなることが

非常に寂しく感じつつも、この時もいつも通り楽しい時間を過ごさせて頂いていました。

入来院家での神秘的な出来事の極め付けが起こったのは正にこのような時でした。

楽しい時間もあつという間に過ぎてしまい、重朝おじいちゃんと久子さん、それと入来院家の御仏壇に帰りのご挨拶をした際に、ふと会話の中で貞子さん（重朝おじいちゃんの奥様、久子さんのお母様）の話をしていて久さんが「お母さん（貞子さん）も必ず見守ってくれているから大丈夫」と妻に声を掛けてくださった時でした。何も無いはずの床間の空間に突然スーツと光（煙）の筋が漂い始め、妻の周りを通ったかと思つたらスーツと消えていってしまいました。この不思議な現象は私だけでなくその場にいたみんなが見ていたので、間違いなく起こったことであり、その状況からも貞さんが妻とお腹の子供に

力を授けにきてくれたのだと、信じずにはいられませんでした。

その後、私達夫婦は予定通り大阪に引越し、5月に妻は無事（若干のトラブルはありましたが）に忠久を出産してくれ、忠久も元気に産まれてきてくれました。妊娠後期での長距離の引越しも含めて、妻と子供が無事であったのも、恐らく貞さんが力を貸してくれたからではないかと私達は思っています。

このように長男忠久が生まれるまでには、入来院家の不思議な力を感じずにはいられない出来事が沢山起きました。しかも、それらの不思議な体験はどれもポジティブなものばかりで、私達夫婦にとつてはとても嬉しい思い出となっています。これは私の勝手な思い込みではありますが、やはり、鎌倉時代から連綿と続いている家というのは何か人智を超えた力があるからなのだと思います。子孫

を残し一族を繁栄させていくということは誰しもが願うことだとは思いますが、思うようにならないのが普通であるところ、数百年に渡り人の思いを繋いでこられた入来院家にはとても不思議な力が宿っているのだと思います。その意味において、最初に重朝おじいちゃんやんが仰った「この家に来られたのだから・・・」という言葉は正にその通りであると思うのと同時に、そのようなご縁を頂けたこと、また快く私達を受け入れて頂いたことに心から感謝させて頂きたいと思えます。

なお、息子の名前ですが、色々と検討をする中で最後の文字が三画であるのが良いということが分かったことを受け、久子さんに「久」の字を使わせて貰いたい旨ご相談したところ快く快諾して頂きました。その上で、鹿児島島の皆様ならお気付きの方が多いと思いますが、「〇久」というのは島津家のお殿様が

使われてきたお名前であるところ、これまた久子さんから「忠久がいいんじゃない？」とのご提案を受け、僭越ながら奇しくも島津家初代と同じお名前とさせて頂くことになりました。本当に恐れ多いことはありませんが、これで入来院家の久子さんから一字をもらい、島津家初代と同じ名前となりましたので、息子には入来院家及び島津家にあやかっただけの字のとおり「久しく」幸せになってもいいと願うのは親バカでしょうか？いずれにしても、忠久以降、「久」の字は大切にさせて頂こうと思っています。

最後に、冒頭で少子化問題に触れたところではありますが、入来院家が家宝のパワースポットとして近い将来脚光を浴びるのではないかと内心ドキドキしていることをお伝えして、締め言葉とさせて頂きます。

(海上保安庁一等海上保安正)